

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部長兼血液浄化センター長	坂口 俊文
副医長	田村 渉
医 員	玉置 瑛一朗
医 員	和田 龍也
非常勤医師	村津 淳

—概要—

本年度から常勤4名、外来非常勤1名という体制となった。昨年度よりスタッフが増えたため、診療に余裕が出て来た。腎臓内科の主たる業務は、腎臓内科領域と血液浄化領域のふたつに分けられる。腎臓内科領域では腎炎や慢性腎臓病（CKD）に対する治療が中心で、腎生検を施行して確定診断をつけ、末期腎不全への進行を阻止するためステロイドや免疫抑制薬を駆使して治療を行っている。2019年度の腎生検は41件であった。また、CKD患者に対しては、少しでも透析導入を遅らせるよう外来において血圧のコントロールや食事療法、体液管理などを行う。血液浄化領域に関しては、末期腎不全患者に対して合併症のないスムーズな血液透析導入を心がけている。今年度の導入患者は44例（腹膜透析 1例）であった。また、維持透析患者のさまざまな合併症に関しては他診療科と連携をとり治療を行っている。透析患者において最も重要なバスキュラー・アクセス（VA）に関しては新規の自己血管内シャント（AVF）造設から人工血管（AVG）移植、VAトラブルに対する再建術（AVF,AVG）や経皮的血管形成術（PTA）まですべて当科で施行している。他院から紹介されるVAトラブルの症例に対しては迅速な対応を心がけており、時間外であっても直ちにPTAや手術を施行している。2019年度のVA手術は計51件、PTAは111件であった。透析用カテーテル（短期型、長期型）も必要に応じて当科で挿入している。透析以外の血液浄化療法に関しての症例数は多くないが、血症交換療法（単純血漿交換やLDLアフェレシス）も施行して治療を行っている。透析室以外でもICUにおいて急性腎障害を合併した重症患者に対して持続的緩徐血液浄化療法を施行している。腎臓だけに止まらず、さまざまな合併症を有した患者に対して、他診療科と連携して血液浄化療法を施行しながら全身管理を行い治療にあたるのが当科の特色である。

—実績—

入院（腎臓内科主科）（2019.4.1～2020.3.31）

入院目的	件数
腎生検	41
ネフローゼ症候群	20
急速進行性糸球体腎炎	5
IgA扁摘後ステロイドパルス	10
多発性嚢胞腎（トルバプタン導入）	3
電解質異常	13
急性腎障害	8
CKD急性増悪	7
心不全（CKD患者）	9
感染症（CKD患者）	7
その他合併症（CKD患者）	4
透析導入	44
新規AVF手術	18
VAトラブル	16
計	205

外来PTA件数：111件

腎生検施行症例の原疾患

IgA 腎症	17例
minor glomerular abnormalities	10例
膜性腎症	6例
糖尿病性腎症	3例
ループス腎炎	1例
急性糸球体腎炎	1例
膜性増殖性糸球体腎炎	1例
巣状糸球体硬化症	1例
半月体形成性糸球体腎炎	1例

VA手術症例

新規AVF	41件
動脈表在化	1例
AVF再建	5件
AVG血栓除去術	2件
AVF閉鎖術	2件

—来年度への抱負—

坂口、田村、玉置は本年度で退職、来年度からは新しく赴任する3名の医師と、和田、村津の体制となる。これまでよりもいっそう充実した診療が行えることを期待する。